

コスモス 3月号

第74巻 第3号

◆宮柊二カレンダー(84) 三月の歌

階段を踏みくだりつつ中間の踊り場暗し勤を
ちゆうかん つとめ
今日去る
歌集『多く夜の歌』

柊二が勤めていた富士製鉄を1960年(昭和35年)3月に48歳で依願退職したときの歌である。「階段の踊り場」は階段の途中の安全性を確保するところであり、休憩の場所、方向転換するところでもある。そうして守られてきたであろう場所を捨て、退職という選択への疑念も持ちながら、「今日去る」と、言い切つてもろもろの不安を一掃したのである。他に「青春を晩年にわが生きゆかん離々たる中年の泪を蔵す」と、新しい生活に入つてゆく自分を励ましている歌もあつてほつとさせられる。

(今村日出子)